

学生相談室だより

2011年第1号（通算第25号）2011年5月 発行：京都橘大学 学生相談室

今年は春の訪れが遅く、肌寒い春でした。また、東日本で巨大地震が起こり、直接、地震の被害にあった人はもちろんのこと、直接の被害にはあわなかった人も、春を楽しむことがむづかしかったのではないのでしょうか。中には生まれ育った地元が変わり果てた状況になり、心配や不安を抱えたまま新年度の学生生活を迎えている方もおられるでしょう。もし、少し無理して学生生活を送っていて、周りの人には言えないけれど、そういう状況を誰かに話せたらと思っている人は、どうぞ遠慮せずに相談室にいらしてください。お待ちしておりますよ。

さて、今年も学生相談室を知っていただくために年に2回の「学生相談室だより」を発行していきたいと思います。「学生相談室だより」は、前期と後期に1回ずつ発行され、大学ホームページにも掲載されます。第1号は、学生相談室の二人のカウンセラーの自己紹介号です。

北尾敬子

この大学に学生相談室ができた1995年から学生相談室カウンセラーをしています。その頃は少しずつ携帯電話が普及しだした頃でしたが、まだ、メールやmixiやtwitterがない時代でした。新しいコミュニケーション・ツールは、予測されていなかったような形で人の心に影響を与えるものです。こういったツールの出現と共に、人々の交流の仕方が変わり、何事も事前に予定を確かめ合う、気を使いあうデリケートなものになったと思います。しかし、一方で、どんなに便利なツールができて、思いがけないハプニングの際は、予定外の生身の交流が生まれるものです。今日は、先日私に起こったまさに思いがけないハプニングについて書いてみます。

それは、4月も下旬になったというのに、雨がしとしと降る夕方5時頃でした。私は傘をさしながら帰宅して、新聞受けから手紙と夕刊を出して、さらにコートのポケットから鍵を出した時でした。ポトン。「アッ」という間もなく、鍵を玄関の外の下水の蓋の小さな隙間に落としてしまったのです。新聞受けに手紙と夕刊を戻し、まずは蓋を動かそうと思いましたが、厚いコンクリートの蓋は、到底、私の力で持ち上げられる重さではありません。（おそらく、「力持ち大会」のチャンピオンでも無理だと思います。）しかし、その鍵は蓋の隙間の

穴から見えているのです。私はその穴に手を入れて鍵を取り出そうと思いました。ところが、残念！手首までしか入りません。今度は、植木鉢の花のつるを巻く棒をもってきましたが、やはり取れません。私は、どのくらい地面にひざまずいて色々なことを試みていたでしょうか。「どうされましたか？」という声が頭の上から聞こえました。傘もいつの間にかどこかにやっけてしまっ、私はけっこう濡れていたのでしょう。犬の散歩をしている女性が心配そうな顔をして見ておられます。それまで鍵を取り出すことに夢中でしたが、にわかには恥ずかしさと寒さに気づきました。「実は、鍵を落としてしまって・・・」と話すと、「それは大変ですね。さっき一度ここを通った時も気づきましたが、声をかけませんでした。でも戻ってきても、まだ、雨の中、何かやっておられるので、これはよほど大変なことなのだと思います。待っていてください、家が近いので何か道具を持ってきます」と言って立ち去られました。その後、待つこと5分。先が曲がった長い針金をもって来て下さいました。今度は二人で鍵に取り組んでみました。針金の長さは十分でもう少しなのですが、取れません。そこへ、もう一人の女性が通りかかり「私がやってみましょうか」と挑戦し、コンクリートの蓋の穴からみごとに鍵を吊り上げて下さいました。私はその頃は、びしょぬれでしたが、嬉しくて涙が出そうでした。(いや、もう鼻水も涙もすでに出ていました)手伝ってくださった二人も大変喜んで下さいましたが、お尋ねしても名前を告げずに立ち去られました。

こういったとき twitter をしている人ならば、場所や状況を知らせればなんとかなるのでしょうか。私には分かりません。私はその晩から風邪をひきましたが、二人に助けていただいたことは最近私に起こった一番嬉しい出来事でした。

このようにドンくさい私、北尾敬子は水曜日と金曜日を担当します。どんな相談でも気楽にいらしてください。

河井直美

京都橘大学の学生相談室で働くようになって今年でちょうど10年目。10年一昔、10年一区切り。10年前、橘女子大は学生数も今より少なく、まだ昭和の名残りをほんのりと残しておりました。しかし、その後大学は共学になり新学部や学科ができ、新館校舎が順に建ち、すっかり平成、いや西暦2000年代の暦が何ページもめくられてしまいました。大学に来る前から小学校や中学校にスクールカウンセラーとして入り、随分“学校”という社会が不健康な社会になってしまっていることに閉塞感を覚えていましたが、大学にはまだ昭和の匂いが残っていてほっとする面がありました。しかし、大学も昭和の匂いはもうしなくなりました。大半の皆さんは平成生まれなので当然でしょうか・・・先月の終わり、吹田の万博記念公園に久々に出向きました。桜満開のマークの

はずが、ほとんど葉桜でがっかり。しかし、ガガーン！いいじゃ～ん。こんなにすごく可愛かったっけ～。そう“太陽の塔”との再会でした！1970年、ちょうどわたくしが10歳の時、大阪で開催された万博。「動く歩道とやらがあるんだ」と大人達が話しているのを聞き、砂利道が勝手に動くのを想像して怖くなったり、ピンク（ストロベリー）のソフトクリームに感激したり思い出と共に、あの太陽の塔はどこかちょっと怖かったのを覚えています。それが、「何ということでしょう」ではないけれど、大きなリフォームが施されたわけではないのに、怖いと感じた太陽の塔を可愛いと感じたのです。しかも、何よりも（あ！）と感じたのは、塔の背中の“黒い太陽”でした。10歳当時には目に留めることもなく、見てもいなかったかもしれない塔の背中ですが、もし見ていたらやはり怖い、正面よりももっと怖いと思ったかもしれません。今回も黒い太陽は可愛いとは思わず、ただ（あ）と感じ入りました。後で、太陽の塔の3つの顔（当時は地底の太陽の顔もあり4つあったそうですが）には、正面胴体部の顔は現在を、てっぺんの黄金の顔は未来を、背中の黒い顔は過去を表していると知りました。しかし、それよりも作者の岡本太郎が「ぬっとしたベラボーさを日本人の心に植えつけられたら」と言って造ったことや、「太陽にだって光もあれば影もある。影も生きている。同じように影も燃えている」と言った言葉がずっと入ってきました。

子どもの時は目に映ったものだけを見て、あの太陽の塔の周りも他のパビリオンが立ち並び、背中も見ようとしなかったので見えにくかったのかもしれない。おかげで怖い思いはせずに済んだのかもしれません。そして、今回可愛いと感じた正面の顔も、少し離れた位置から全体像を見たので、怖いと思っていた胴体の顔も可愛いと思い、「何なんだ？」と感じた黄金の顔も見下ろしながらしっかりあそこにあるんだと思ったのでしょう。緑の風景の中に立つ太陽の塔の全貌を見て初めて、ああこんなにすごいものだったのねと気づき、影をしっかりと背に抱えた姿に初めて出会ったものとして、「また見に来よう、いや、会いに来よう」と思いました。

学校という社会、学校という空間に閉塞感を覚え、ストレスを感じているのは子どもだけではなく、大人達も同様です。人類の進歩と調和を謳い、夢の未来都市を掲げた万博で「夢の未来なんて信じるな」と言って、縄文的な太陽の塔を未来都市の中のど真ん中に造った岡本太郎の作品は、「造ってしまえばみんなのもの」の言葉通り、40年以上たった今も変わらずドーンと健在し、私のものでもあるんだなあと、生気を補給されました。

何か言おうとしてうまく言えない小学生の、万博公園遠足の作文になりました。想像力のある方、注釈を求む。 月・火・木に来ています。

学生相談室開室曜日および開室時間

月曜日	9 : 00 ~ 16 : 10	河井先生
火曜日	9 : 00 ~ 16 : 10	河井先生
水曜日	9 : 00 ~ 16 : 10	北尾先生
木曜日	9 : 00 ~ 16 : 10	河井先生
金曜日	9 : 00 ~ 16 : 10	北尾先生

個別面接時間

月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 9 : 00 ~ 9 : 40 | ⑤ 13 : 00 ~ 13 : 40 |
| ② 9 : 50 ~ 10 : 30 | ⑥ 13 : 50 ~ 14 : 30 |
| ③ 10 : 40 ~ 11 : 20 | ⑦ 14 : 40 ~ 15 : 20 |
| ④ 11 : 30 ~ 12 : 10 | ⑧ 15 : 30 ~ 16 : 10 |

★個別面接については、予約が基本となります。

「学生相談申込票」で申し込み、「約束カード」で相談日時を確認して相談を受けてください。

★予約当日は、直接来室してください。カウンセラーが対応します。

★昼休み時間は、コミュニケーションスペースで自由な相談ができます。

★夏期および春期の長期休暇中は、原則として週2回の開設となります。

長期期間中は、

医務室（075-574-4119）または

学生支援課学生センター（075-574-4114）

までご連絡ください。